



## **Cisco Unity Connection** パーソナル着信転送ルール Web ツール ユーザガイド (リリース 10.x)

初版 : 2013 年 11 月 01 日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 : シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間 : 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### パーソナル着信転送ルール Web ツール 1

パーソナル着信転送ルール Web ツールについて 1

パーソナル着信転送ルール Web ツールへのアクセス 2

パーソナル着信転送ルール Web ツールのヘルプへのアクセス 2

### 発信者グループの管理 5

発信者グループについて 5

発信者グループの作成 6

発信者グループへの発信者の追加 6

発信者グループからの発信者の削除 7

発信者グループの名前の変更 8

発信者グループの削除 8

### 通知先と通知先グループの管理 9

通知先について 9

個人の通知先の作成 10

個人の通知先の変更 11

個人の通知先の削除 11

電話通知先の呼び出し回数設定の変更 12

通知先のループ検出設定の変更 12

通知先グループについて 13

通知先グループの作成 13

通知先グループの変更 14

通知先グループからの通知先の削除 15

通知先グループの削除 15

### ルールセットとルールの管理 17

ルールセットとルールについて 17

ルールセットを設定するためのタスク リスト 18

ルールセットの作成 19

- ルールセットへのルールの追加 19
- ルールの変更 23
- ルールセット内のルールの順序変更 23
- ルールセットのテスト 24
- ルールセットの削除 25
- ルールセットの有効化と無効化 25
- パーソナル着信転送ルールを適用するための基本転送ルールの設定 27
- 設定の変更 29**
  - ルール処理設定の変更 29
  - 通話の保留と通話の発信者名確認の設定の変更 30



## 第 1 章

# パーソナル着信転送ルール Web ツール

- [パーソナル着信転送ルール Web ツールについて, 1 ページ](#)
- [パーソナル着信転送ルール Web ツールへのアクセス, 2 ページ](#)
- [パーソナル着信転送ルール Web ツールのヘルプへのアクセス, 2 ページ](#)

## パーソナル着信転送ルール Web ツールについて

Cisco Unity Connection では、パーソナル着信転送ルール Web ツールで設定したルールに従って、着信コールを転送または発信者名確認することができます。

Connection は、パーソナル着信転送ルールを使用して、特定の着信コールを発信者の識別情報、時刻、および会議スケジュールに従って転送したり、着信コールをボイスメールまたは別の電話番号に転送することができます。着信コールを単一の電話番号、複数の電話番号、または電子メールベースのポケットベルアドレスに転送するルール、または SMS メッセージを SMS デバイスに送信するルールを設定することができます。さらに、着信の一部または全部の発信者名を確認するルールを設定することもできます。

単一の電話番号からの着信コールをボイスメールに転送するというような、ごく単純なパーソナル着信転送ルールを作成することや、次のコンポーネントを使用してより複雑なルールを作成することができます。

連絡先リスト	Connection は、連絡先リストを使用して、着信コールの転送や、ボイスコマンド使用時のコール発信を行います（連絡先リストは Messaging Assistant Web ツールで管理します）。
発信者グループ	発信者をグループにまとめて、1つのルールを複数の発信者に適用することができます。そのため、ルールを何回も作成し直す必要はありません。発信者グループには、他の Connection ユーザ、連絡先リストの連絡先、および管理者が定義した連絡先を含めることができます。
個人の通知先	Connection で着信コールを転送できる連絡先電話番号のディレクトリを作成できます（この通知先は通知デバイスに付加されます）。

<b>通知先グループ</b>	個人通知先と通知デバイスをグループにまとめることで、Connection が着信コールを各通知先にリストの順序で転送できます。この動作は、応答があるまで、発信者が電話を切るまで、またはグループの最後の通知先に達するまで続けられます。グループ内の通知先の順序や、各通知先の応答があるまで Connection が待機する時間を指定できます。
----------------	---

ルールは、作成後に電話またはパーソナル着信転送ルール Web ツールを使用して有効にします。

## パーソナル着信転送ルール Web ツールへのアクセス

### 手順

- 
- ステップ 1** <http://<Cisco Unity Connection サーバ名>/ciscopca> にある Cisco PCA のサインイン ページに移動します。URL の大文字小文字は区別されます。  
Cisco PCA の URL をブックマークすると、パーソナル着信転送ルール Web ツールにアクセスするたびに Web アドレスを入力する必要がなくなります。
  - ステップ 2** ユーザ名とパスワードを入力します。  
Cisco PCA のパスワードを忘れた場合は、Connection の管理者に問い合わせてください。
  - ステップ 3** [サインイン] を選択します。
  - ステップ 4** Cisco PCA のホーム ページで、[パーソナル着信転送ルール] リンクを選択します。
  - ステップ 5** 作業終了後、[パーソナル着信転送ルール] ページの右上隅にある [サインアウト] を選択します。
- 

## パーソナル着信転送ルール Web ツールのヘルプへのアクセス

### 手順

- 
- ステップ 1** パーソナル着信転送ルールの任意のページで、[ヘルプ] メニューを選択します。
  - ステップ 2** [ヘルプ] メニューから、次の適切なリンクを選択します。

オプション	説明
[コンテンツ]	ヘルプのトピックがリスト表示されます。
[インデックス]	ヘルプのインデックスが表示されます。
[このページ]	表示するページに対応したヘルプトピックが表示されます。

アイコンのヘルプが必要な場合は、カーソルをアイコンの上に置いてツールチップを表示させます。

---







## 第 2 章

# 発信者グループの管理

- [発信者グループについて, 5 ページ](#)
- [発信者グループの作成, 6 ページ](#)
- [発信者グループへの発信者の追加, 6 ページ](#)
- [発信者グループからの発信者の削除, 7 ページ](#)
- [発信者グループの名前の変更, 8 ページ](#)
- [発信者グループの削除, 8 ページ](#)

## 発信者グループについて

発信者グループを作成すると、1つのルールを複数の発信者に適用できるため、ルールを何回も作成し直す必要はありません。発信者グループには、連絡先リストおよび Cisco Unity Connection ディレクトリからのエントリが複数含まれています。

グループを使用すると、いろいろな方法で発信者を整理することが容易になります。たとえば、優先順位の高いクライアントと同僚とを含む発信者グループを作成することもできます。ユーザが会議中のときにこのグループの発信者が必ずユーザと連絡をとれるようにするには、会議中はこのグループからの着信は携帯電話に転送するというルールと、他の着信はすべてボイスメールに転送するというルールを持つルール設定を作成します。

発信者グループのメンバーにできるのは、次のタイプの発信者です。

連絡先	連絡先リストに入力されている発信者
管理者が定義した連絡先	Connection のディレクトリに登録されているが、Connection の機能が有効になっていなくて、ボイスメールボックスも持たない発信者
Connection ユーザ	Connection のディレクトリに登録されており、ボイスメールボックスを持ち、Connection の機能が有効になっている発信者



- (注) 発信者グループに Cisco Unity Connection ディレクトリに登録されている発信者が含まれている場合、Connection の管理者が後でその発信者をシステムから削除すると、その発信者は、発信者グループからも削除されます。

## 発信者グループの作成

### 手順

- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [発信者グループ] メニューで、[発信者グループの表示] を選択します。
- ステップ 2 [発信者グループ] ページで、メニューバーの下にある [新しい発信者グループ] アイコンを選択します。
- ステップ 3 [発信者グループ] ページで、発信者グループの名前を入力し、[保存] を選択します。
- ステップ 4 [メンバーの追加] を選択します。
- ステップ 5 [連絡先検索] ページで、Connection ディレクトリ内のユーザのリストを検索するか、連絡先リストにあるユーザのリストを検索するかに応じて、適切なタブを選択します。  
Connection ディレクトリ内のユーザと管理者が定義した連絡先の両方が検索できます。管理者が定義した連絡先は、検索結果リストの名前にアスタリスク (\*) 付きで表示されます。
- ステップ 6 検索条件に応じてフィールドに入力して、[検索] を選択します。
- ステップ 7 名前の横にあるチェックボックスをオンにして、連絡先またはユーザを発信者グループに追加します。
- ステップ 8 必要に応じて、[ユーザの追加] または [連絡先の追加] を選択します。Connection によって連絡先が発信者グループに追加され、[発信者グループ] ページに戻ります。
- ステップ 9 さらに追加するユーザまたは連絡先があれば、手順 4 ~ 8 を繰り返します。
- ステップ 10 [発信者グループ] ページで、[保存] を選択します。

## 発信者グループへの発信者の追加

発信者グループのメンバーはいつでも追加できます。

## 手順

- ステップ1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [発信者グループ] メニューで、[発信者グループの表示] を選択します。
- ステップ2 [発信者グループ] ページで、発信者グループ名を選択します。
- ステップ3 [発信者グループ] ページで、[メンバーの追加] を選択します。
- ステップ4 [連絡先検索] ページで、Connection ディレクトリ内のユーザのリストを検索するか、連絡先リストにあるユーザのリストを検索するかに応じて、適切なタブを選択します。  
Connection ディレクトリ内のユーザと管理者が定義した連絡先の両方が検索できます。管理者が定義した連絡先は、検索結果リストの名前にアスタリスク (\*) 付きで表示されます。
- ステップ5 検索条件に応じてフィールドに入力して、[検索] を選択します。
- ステップ6 名前の横にあるチェックボックスをオンにして、連絡先またはユーザを発信者グループに追加します。
- ステップ7 必要に応じて、[ユーザの追加] または [連絡先の追加] を選択します。Connection によって連絡先またはユーザが発信者グループに追加され、[発信者グループ] ページに戻ります。
- ステップ8 [発信者グループ] ページで、[保存] を選択します。

# 発信者グループからの発信者の削除

発信者グループのメンバーはいつでも削除できます。

## 手順

- ステップ1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [発信者グループ] メニューで、[発信者グループの表示] を選択します。
- ステップ2 [発信者グループ] ページで、発信者グループ名を選択します。
- ステップ3 [発信者グループ] ページで、削除する発信者名の横にあるチェックボックスをオンにします。複数のチェックボックスをオンにすると、複数の発信者を一度に削除できます。
- ステップ4 [選択項目の削除] を選択します。

## 発信者グループの名前の変更

### 手順

- 
- ステップ 1** パーソナル着信転送ルール Web ツールの [発信者グループ] メニューで、[発信者グループの表示] を選択します。
  - ステップ 2** [発信者グループ] ページで、発信者グループ名を選択します。
  - ステップ 3** [発信者グループ] ページで、[名前] フィールドにあるグループの名前を変更します。
  - ステップ 4** [保存] を選択します。
- 

## 発信者グループの削除

発信者グループは、ルールで使用されている場合は、削除できません。まずルールから発信者グループを削除してから、その発信者グループを削除します。

### 手順

- 
- ステップ 1** パーソナル着信転送ルール Web ツールの [発信者グループ] メニューで、[発信者グループの表示] を選択します。
  - ステップ 2** [発信者グループ] ページで、削除するグループの横にあるチェックボックスをオンにします。複数のチェックボックスをオンにすると、複数のグループを一度に削除できます。
  - ステップ 3** メニューバーの下にある [選択行の削除] アイコンを選択します。
-



## 第 3 章

# 通知先と通知先グループの管理

- [通知先について, 9 ページ](#)
- [個人の通知先の作成, 10 ページ](#)
- [個人の通知先の変更, 11 ページ](#)
- [個人の通知先の削除, 11 ページ](#)
- [電話通知先の呼び出し回数設定の変更, 12 ページ](#)
- [通知先のループ検出設定の変更, 12 ページ](#)
- [通知先グループについて, 13 ページ](#)
- [通知先グループの作成, 13 ページ](#)
- [通知先グループの変更, 14 ページ](#)
- [通知先グループからの通知先の削除, 15 ページ](#)
- [通知先グループの削除, 15 ページ](#)

## 通知先について

通知先は、Cisco Unity Connection で着信コールを転送できる、またはパーソナル着信転送ルールの一部としてテキストメッセージを送信できる電話番号や電子メールアドレスです。通知先のタイプには、次の3つがあります。

<b>[電話]</b>	電話通知先は、Connection で着信コールを転送できる電話番号です。  Connection ディレクトリ内の、個人に関連付けられている電話番号は、電話通知先として使用可能です。この電話番号には、プライマリ内線番号、ボイスメールアクセス番号、および業務用携帯電話が含まれる場合があります。ディレクトリ内の電話番号は、Connection の管理者が保守します。
-------------	---

	<p>また、携帯電話番号、自宅の電話番号（Connection ディレクトリに登録されていない場合）、および出張中に連絡がとれる電話番号など、個人の電話通知先を作成することができます。これらの通知先はパーソナル着信転送ルール Web ツールで管理します。</p>
[SMS]	<p>SMS 通知先は、Connection でテキストメッセージを送信できる SMS デバイスの電話番号です。メッセージの標準形式は「&lt;日付&gt; &lt;時刻&gt; に &lt;番号または内線番号&gt; からコールがありました。」です（例：2010 年 10 月 4 日 15:16 に 3233 からコールがありました。）。</p> <p>SMS 通知先をルールで使用するには、少なくとも 1 つの電話通知先を含む通知先グループにこの通知先を追加する必要があります（SMS 通知先は、ルールの作成時に [ルール] ページの [通知先] リストに表示されることはありません）。</p> <p>SMS デバイスは、Connection の管理者が追加する場合がありますが、ユーザは Messaging Assistant Web ツールで修正できる場合があります。Messaging Assistant Web ツールで通知先として使用するために、パーソナル着信転送ルール Web ツールで SMS デバイスを有効にする必要はありません。</p>
[SMTP]	<p>SMTP 通知先は、Connection でテキストメッセージを送信できる電子メールアドレスです。メッセージの標準形式は「&lt;日付&gt; &lt;時刻&gt; に &lt;番号または内線番号&gt; からコールがありました。」です（例：2010 年 10 月 4 日 15:16 に 3233 からコールがありました。）。</p> <p>SMTP 通知先をルールで使用するには、少なくとも 1 つの電話通知先を含む通知先グループにこの通知先を追加する必要があります（SMTP 通知先は、ルールの作成時に [ルール] ページの [通知先] リストに表示されることはありません）。</p> <p>SMTP デバイスは、Connection の管理者が作成する場合がありますが、ユーザは Messaging Assistant Web ツールで修正できる場合があります。Messaging Assistant Web ツールで通知先として使用できるようにするために、パーソナル着信転送ルール Web ツールで SMTP デバイスを有効にする必要はありません。</p>

## 個人の通知先の作成

### 手順

- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [通知先] メニューで、[通知先の表示] を選択します。
  - ステップ 2 [通知先] ページで、メニューバーの下にある [新しい通知先] アイコンを選択します。
  - ステップ 3 [通知先の作成] ページで、[名前] フィールドに通知先の名前を入力します。
  - ステップ 4 [電話番号] フィールドに通知先の電話番号を入力します。  
0～9 の数字を使用します。桁と桁の間には、スペースまたはカッコを使用しないでください。長距離番号の場合は、1 とエリア コードも含めます。
- 特定の電話番号を入力できない場合や、電話システムが追加の文字（たとえば、外線番号をダイヤルするためのアクセスコード）を必要とする場合があります。入力方法に疑問がある場合は、Connection の管理者に問い合わせてください。

- ステップ 5** [呼び出し回数] フィールドに、着信をボイスメールまたは通知先グループ内の次の通知先に転送するまで **Connection** が待つ呼び出し回数を、他の着信設定に応じて入力します。デフォルト値は 4 回です。
- ステップ 6** **Connection** に着信を転送するようにこの通知先を設定した場合は、[ループ検出の有効化] チェックボックスをオンにします。  
**Connection** から電話通知先に着信を転送するルールを作成する場合、気付かずにコールループ状況を作成してしまうことがあります。コールループ状況では、**Connection** が着信コールを電話に転送した後で、電話が着信コールを **Connection** に送り返します。そのため、発信者がユーザに到達できないことがあります。**Connection** に着信コールを転送するようにこのタイプの通知先を設定する場合は、この設定を選択すると、コールループの問題を排除できます。
- ステップ 7** [保存] を選択します。

## 個人の通知先の変更

### 手順

- ステップ 1** パーソナル着信転送ルール Web ツールの [通知先] メニューで、[通知先の表示] を選択します。
- ステップ 2** [通知先] ページで、個人の通知先の名前を選択します。
- ステップ 3** [通知先の変更] ページで、変更を加え、[保存] を選択します。

## 個人の通知先の削除

個人の通知先は、通知先グループまたはルールで使用されている間は、削除できません。まず通知先グループまたはルールから通知先を削除してから、その通知先を削除します。

### 手順

- ステップ 1** パーソナル着信転送ルール Web ツールの [通知先] メニューで、[通知先の表示] を選択します。
- ステップ 2** [通知先] ページで、削除する個人の通知先のチェックボックスをオンにします。複数のチェックボックスをオンにすると、複数の個人の通知先を一度に削除できます。
- ステップ 3** メニューバーの下にある [選択行の削除] アイコンを選択します。

## 電話通知先の呼び出し回数設定の変更

電話通知先の場合、[通知先] ページで [呼び出し回数] 設定を変更できます。

### 手順

- 
- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [通知先] メニューで、[通知先の表示] を選択します。
  - ステップ 2 [通知先] ページの [呼び出し回数] カラムで、着信をボイスメールまたは通知先グループ内の次の通知先に転送するまで Connection が待つ呼び出し回数の新しい値を入力します。
  - ステップ 3 [アップデート] を選択します。
- 

## 通知先のループ検出設定の変更

プライマリ内線番号以外の電話通知先の場合、Cisco Unity Connection に着信コールを転送するように電話を設定したときは、[ループ検出の有効化] 設定を使用して示すことができます。たとえば、すべての着信コールを Connection に転送するように携帯電話を設定して、すべてのボイスメッセージを Connection に格納することができます。Connection から携帯電話に着信コールを転送するルールを作成する場合、気付かずにコールループ状況を作成してしまうことがあります。コールループ状況では、Connection が着信コールを携帯電話に転送した後で、携帯電話が着信コールを Connection に送り返します。そのため、発信者がユーザに到達できないことがあります。

この設定を選択すると、コールループの問題を排除できます。電話通知先から Connection に着信コールが転送され、その後電話に送り返されている場合、Connection は、着信コールを次の割り当て済みデバイスに転送するか（通知先グループが作成されている場合）、または定義された通知先が他になければボイスメールに転送します。



- 
- (注) この設定が有効の場合、Connection が着信コールを通知先グループ内の次の通知先またはボイスメールに転送するため、多少の遅延が発生することがあります。
- 

### 手順

- 
- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [通知先] メニューで、[通知先の表示] を選択します。
  - ステップ 2 Cisco Unity Connection に着信を転送するようにこの通知先を設定した場合は、[ループ検出の有効化] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 3 [アップデート] を選択します。
-



## 通知先グループについて

通知先グループには順番に並べられた複数の通知先が含まれ、1つのグループ名で保存されます。たとえば、特定の連絡先からの着信コールを必ず受信できるようにするには、プライマリ内線番号、携帯電話番号、および自宅の電話番号を含む通知先グループを作成してから、連絡先からの着信コールを通知先グループに転送するよう Cisco Unity Connection に指示するルールを作成します。ルールに使用するには、通知先グループに少なくとも1つの電話通知先が含まれている必要があります。

着信コールが通知先グループに転送されると、Connection は、通知先にリストの順序で転送しようとしています。この試みは、応答があるまで、発信者がボイスメッセージを残すか電話を切るまで、またはグループの最後の通知先に達するまで続けられます。グループに SMS または SMTP 通知先が含まれている場合、Connection は着信コールに関するテキストメッセージをデバイスに送信します。

通知先が応答しない場合、Connection は発信者に対し、次の通知先を試みるには1を押し、ボイスメッセージを残す場合は2を押しよう指示します。Connection は、指定された呼び出し回数に基づいて、応答があるまで待機します。この呼び出し回数は、通知先の作成時に [呼び出し回数] フィールドで設定します。呼び出し回数の指定がない場合、Connection はデフォルト値の4回を使用します。呼び出し回数の設定は、通知先を作成した後にいつでも変更できます。

Connection が通知先をすべて試みて応答がないとき、その着信コールはデフォルトの電話番号または通知先グループ内のプライマリ内線番号（通常はプライマリ内線番号）に転送されます。

## 通知先グループの作成

通知先グループには、任意の通知先を追加できます。1つの通知先を複数の通知先グループに追加することもできます。通知先グループには、最低1つの電話番号が含まれている必要があります。

グループ内の通知先の順序は重要です。その理由は、Cisco Unity Connection がリストの先頭の通知先から末尾の通知先に向けて順番にダイヤルするからです。通知先は、グループに追加した後、要求に合うように順序を変更する必要があります。

## 手順

- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [通知先] メニューで、[通知先グループの表示] を選択します。
- ステップ 2 [通知先グループ] ページで、メニューバーの下にある [新しい通知先グループ] アイコンを選択します。
- ステップ 3 [通知先グループ] ページで、グループの名前を入力します。
- ステップ 4 [保存] を選択します。
- ステップ 5 [通知先グループ] ページで、[通知先の追加] を選択します。
- ステップ 6 [通知先の追加] ページで、グループに追加する通知先の横にあるチェックボックスをオンにします。複数のチェックボックスをオンにすると、複数の通知先が一度に追加できます。
- ステップ 7 [通知先の追加] を選択します。
- ステップ 8 [通知先グループ] ページで、[優先順位] カラムに数値を入力して、Connection がグループにある通知先を呼び出す順序を指定します（たとえば、携帯電話を最初に、自宅の電話を 2 番目に呼び出すには、携帯電話に対して 1 を、自宅の電話に対して 2 を入力します）。
- ステップ 9 [保存] を選択します。

## 通知先グループの変更

グループ名を変更したり、グループに対して通知先を追加または削除したり、グループにおける通知先の優先順位を変更することができます。

## 手順

- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [通知先] メニューで、[通知先グループの表示] を選択します。
- ステップ 2 [通知先グループ] ページで、グループの名前を選択します。
- ステップ 3 [通知先グループ] ページで、グループ名またはグループ内の通知先の優先順位を変更します。
- ステップ 4 グループに別の通知先を追加するには、[通知先の追加] を選択します。グループから通知先を削除するには、通知先の名前の横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] を選択します。
- ステップ 5 [保存] を選択します。

## 通知先グループからの通知先の削除

削除の結果、グループ内の通知先が SMS または SMTP 通知先だけになる場合は、最後の電話通知先は通知先グループから削除できません。

### 手順

- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [通知先] メニューで、[通知先グループの表示] を選択します。
- ステップ 2 [通知先グループ] ページで、グループの名前を選択します。
- ステップ 3 [通知先グループ] ページで、グループから削除する通知先のチェックボックスをオンにします。複数のチェックボックスをオンにすると、複数の通知先を一度に削除できます。
- ステップ 4 [選択項目の削除] を選択します。

## 通知先グループの削除

通知先グループは、ルールで使用されている間は、削除できません。まず通知先グループをルールから削除してから、その通知先グループを削除します。

### 手順

- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [通知先] メニューで、[通知先グループの表示] を選択します。
- ステップ 2 [通知先グループ] ページで、削除するグループのチェックボックスをオンにします。複数のチェックボックスをオンにすると、複数の通知先グループを一度に削除できます。
- ステップ 3 メニューバーの下にある [選択行の削除] アイコンを選択します。





## 第 4 章

# ルールセットとルールの管理

---

- [ルールセットとルールについて, 17 ページ](#)
- [ルールセットを設定するためのタスク リスト, 18 ページ](#)
- [ルールセットの作成, 19 ページ](#)
- [ルールセットへのルールの追加, 19 ページ](#)
- [ルールの変更, 23 ページ](#)
- [ルールセット内のルールの順序変更, 23 ページ](#)
- [ルールセットのテスト, 24 ページ](#)
- [ルールセットの削除, 25 ページ](#)
- [ルールセットの有効化と無効化, 25 ページ](#)
- [パーソナル着信転送ルールを適用するための基本転送ルールの設定, 27 ページ](#)

## ルールセットとルールについて

パーソナル着信転送ルールを使用すると、着信コールを受信する方法と場所を統合できます。パーソナル着信転送ルール Web ツールを使用して、発信者の識別情報、時刻、および会議スケジュールに基づいて、着信コールを転送および発信者確認するルールを作成できます。また、Cisco Unity Connection が選択した着信コールを通知先または通知先グループに転送するように設定することもできます。

ルールの特性は、必要に応じて変更できます。たとえば、同僚からの着信すべてを携帯電話に送信するルールを作成した後で、そのルールを同僚以外からの着信すべてを携帯電話に送信するように変更することができます。

「着信はすべてボイスメールに送信する」などの一般的なルールにもできますが、「午前 9:00 から 10:00 の間にジェーン・スミスから着信があった場合は携帯電話に送信し、発信者名を確認する」などの具体的なルールにすることもできます。

ルールセットは、1つまたは複数のルールのグループで、スケジュールに応じて、特定の日付/曜日および特定の範囲の日付/曜日に有効にできます。ルールセットで指定されている日付または曜日になると、Connection は、ルールセットを有効にし、そのルールセットに照合して着信の処理を始めます。Connection では、日付の範囲に対して有効になっているルールセットは、1つの曜日に対して有効になっているルールセットに優先します。

Connection は、着信コールの条件に最初に一致するルールセット内のルールを使用して、その着信に適用します。したがって、設定内でルールを並べる順序は重要です。一般に、ルールは最も固有性の高いものから最も固有性の低いものへと並べます。

ルールセットを正常に設定するには、[ルールセットを設定するためのタスク リスト](#)、(18 ページ) を参照してください。

## ルールセットを設定するためのタスク リスト

ルールセットを正常に設定するには、次のタスクを記載順に実行します。

- 1 ルールで使用する個人連絡先、発信者グループ、個人通知先、および通知先グループをすべて設定します。次の適切なトピックを参照してください。
  - 『*User Guide for the Cisco Unity Connection Messaging Assistant Web Tool*』の「Managing Your Contacts」([http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/8x/user/guide/assistant\\_b\\_8xcucugasst.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user/guide/assistant_b_8xcucugasst.html))
  - 発信者グループの作成、(6 ページ)
  - 個人の通知先の作成、(10 ページ)
  - 通知先グループの作成、(13 ページ)
- 2 ルールセットを作成します。[ルールセットの作成](#)、(19 ページ) を参照してください。
- 3 ルールセットにルールを追加します。[ルールセットへのルールの追加](#)、(19 ページ) を参照してください。
- 4 ルールを正しい順序にします。[ルールセット内のルールの順序変更](#)、(23 ページ) を参照してください。
- 5 転送ルールを適用する前に Connection が内線番号を呼び出すようにする場合は、パーソナル着信転送ルール Web ツールの [設定]>[ルール設定] ページで該当するチェックボックスをオンにします。[ルール処理設定の変更](#)、(29 ページ) を参照してください。
- 6 必要に応じて、ルールセットをテストします。[ルールセットのテスト](#)、(24 ページ) を参照してください。
- 7 必要に応じて、ルールを変更します。[ルールの変更](#)、(23 ページ) を参照してください。
- 8 ルールセットを有効にします。[ルールセットの有効化と無効化](#)、(25 ページ) を参照してください。

- 9 パーソナル着信転送ルールを適用するように基本転送ルールを設定します。 [パーソナル着信転送ルールを適用するための基本転送ルールの設定](#)、(27 ページ) を参照してください。

## ルールセットの作成

### 手順

- 
- ステップ 1** パーソナル着信転送ルール Web ツールの [ルール] メニューで、[着信転送ルールセットの表示] を選択します。
  - ステップ 2** [着信転送ルールセットの設定] ページで、メニューバーの下にある [新しいルールセット] アイコンを選択します。
  - ステップ 3** [ルールセット] ページで、新しいルールセットの名前を入力します。状況に適合し、覚えやすい名前を選択します (たとえば、「出勤日」という名前のルールセットを月曜日から金曜日にアクティブにし、「アフリカ旅行」というルールセットは、その旅行日 (暦日) の間アクティブにします)。
  - ステップ 4** Media Master で、[録音] を選択して、ルールセットの名前を録音します。Cisco Unity Connection は、電話でルール設定にアクセスしたときに、この名前を再生してルールセットを識別します。
  - ステップ 5** 録音の終了後、[停止] を選択します。
  - ステップ 6** [保存] を選択します。
- 

## ルールセットへのルールの追加

ルールセットを作成後、そのルールセットに1つまたは複数のルールを追加します。



### 注意

ルールを追加する前に、ルールで使用する連絡先、発信者グループ、個人通知先、または通知先グループをすべて作成する必要があります。これらが存在しないと、ルールを正しく設定できません。

---

手順

- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [ルール] メニューで、[着信転送ルールセットの表示] を選択します。
- ステップ 2 [着信転送ルールセットの設定] ページで、そこにルールを追加するルールセットの名前を選択します。
- ステップ 3 [ルールセット] ページの [転送ルール] セクションで、[ルールの追加] を選択します。
- ステップ 4 [ルール] ページで、[呼び出しが] セクションに適切な情報を入力します。Connection が呼び出し、または発信者を識別するときにこの情報を使用します。少なくとも、着信コールの転送先となる通知先、通知先グループ、またはボイスメールを選択する必要があります。次の表を使用して、フィールドの値を決定します。

フィールド	考慮事項
[送信元]	<p>[発信者]、[発信者グループ]、[電話番号]、[番号の種類] フィールドとともに使用して、ルールにおいて発信者の識別情報に対する条件を設定します。</p> <p>[送信元] チェックボックスをオンにして、必要に応じて、リストの [次の発信元] または [次の発信元以外] を選択します。</p>
[発信者]	<p>発信者をルールに追加するのに使用します。</p> <p>a. [発信者] チェックボックスをオンしてから、[発信者の追加] を選択します。</p> <p>b. [連絡先検索] ページで、Connection ディレクトリ内のユーザのリストを検索するか、連絡先リストにあるユーザのリストを検索するかに応じて、適切なタブを選択します。Connection ディレクトリ内のユーザと管理者が定義した連絡先の両方が検索できます。管理者が定義した連絡先は、検索結果リストの名前にアスタリスク (*) 付きで表示されます。</p> <p>c. 名前または名前の一部を入力して、[検索] を選択します。</p> <p>d. ルールに追加する発信者の横にあるチェックボックスをオンにします。複数のチェックボックスをオンにすると、複数の発信者を一度に追加できます。</p> <p>e. 必要に応じて、[ユーザの追加] または [連絡先の追加] を選択します。</p> <p>f. 発信者をルールから削除するには、その名前を選択し、[選択項目の削除] を選択します。</p>
[発信者グループ]	<p>発信者グループをルールに追加するのに使用します。</p> <p>[発信者グループ] チェックボックスをオンにし、リストにある発信者グループを選択します（発信者グループをルールで使用する前に、発信者グループを作成する必要があります）。</p>



フィールド	考慮事項
[電話番号]	<p>電話番号をルールに追加するのに使用します。</p> <p>[電話番号] チェックボックスをオンにし、<b>Connection</b> で着信に関連付ける番号を入力します。<b>Connection</b> は、着信した電話番号が、フィールドに入力した番号と完全に一致した場合にのみ、ルールを処理します。複数の電話番号と一致させるには、ワイルドカード文字 X および * を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X 文字は、0～9の間の1桁の数字と一致します。たとえば、パターン9XXX は 9000～9999 の電話番号の範囲と一致します。</li> <li>• アスタリスク (*) は、連続する数字と一致します。たとえば、パターン 5556304* は 5556304、55563040、55563041、5556304100 などの電話番号と一致します。</li> </ul>
[番号の種類]	<p>必要に応じて、<b>Connection</b> が発信者を既知の電話番号（<b>Connection</b> ユーザ、連絡先、または <b>Connection</b> 管理者が定義した連絡先）であるか、あるいは未知の電話番号（外部の発信者）であるかを識別したのに基づいて、発信者を含めるか、あるいは除外するかを使用します。</p> <p>[番号の種類] チェックボックスをオンにして、必要に応じて、リストの [既知の電話番号] または [不明な電話番号] を選択します。</p>
[着信した時間]	<p><b>Connection</b> が着信コールにルールを適用する時間を設定するのに使用します。</p> <p>[着信した時間] チェックボックスをオンにして、必要に応じて、リストの [着信した時間] または [着信しなかった時間] を選択します。時間と分のリストで時間範囲を選択します。</p>
[会議中であるとき]	<p><b>Connection</b> が、着信にルールを適用する場合に、会議に参加しているかどうかを <b>Microsoft Outlook</b> のカレンダーを使用して判定するのに使用します。<b>Connection</b> は <b>Outlook</b> の会議時間が [予定あり] とスケジュールされているときは、ユーザが会議中であると見なします。[仮の予定] に設定されている会議、[空き時間]、または [外出中] はすべて <b>Connection</b> では考慮されません。</p> <p>[会議中であるとき] チェックボックスをオンにして、必要に応じて、リストの [会議中であるとき] または [会議中ではないとき] を選択します。</p> <p>(注) この機能は、一部のシステムでは利用できません。この機能が使用可能かどうかについては、<b>Connection</b> の管理者に問い合わせてください。</p>

**ステップ 5** [呼び出しの転送先] セクションに、**Connection** が呼び出しを転送するときに使用する適切な情報を入力します。ルールを有効にするためには、通知先、通知先グループ、またはボイスメールのいずれかを指定する必要があります。次の表を使用して、フィールドの値を決定します。

フィールド	考慮事項
[通知先]	<p>Connection が、指定した通知先に呼び出しを転送するのに使用します。</p> <p>[通知先] を選択してから、リストの通知先の名前を選択します。</p> <p>(注) SMS 通知先と SMTP 通知先は [通知先] リストには表示されません。ルールに使用するには、デバイスは、少なくとも 1 つの電話番号を持つ通知先グループに含まれている必要があります。</p>
[通知先グループ]	<p>Connection が、指定した通知先グループに呼び出しを転送するのに使用します。</p> <p>[通知先グループ] を選択してから、リストの通知先グループの名前を選択します。</p>
[ボイスメール]	<p>Connection が、ボイスメールに呼び出しを直接転送するのに使用します。</p> <p>[ボイスメール] を選択します。</p>
[コールの発信者名を確認する]	<p>Connection が、ルールを適用する着信をスクリーニングするのに使用します。</p> <p>[コールの発信者名を確認する] チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) このオプションは、Connection の管理者がスクリーニングオプションを有効にし、かつ Messaging Assistant Web ツールの [通話保留と発信者名確認] オプションページで発信者名確認オプションが設定されている場合に限り使用できます。</p> <p>定義されているどのルールにも一致しない着信は、有効になっている任意の発信者名確認オプションを使用して、プライマリ内線番号に転送されます。これらの着信の発信者名確認をしない場合は、すべての着信に一致するワイルドカード文字を使用してルールを作成し、ルールセットの最後のルールとして設定し、[コールの発信者名を確認する] チェックボックスをオフにします。</p>

- ステップ 6** [プレビュー] セクションで、[プレビューのアップデート] を選択してルールのテキストバージョンを表示し、ルールをルールセットに追加する前に、そのルールが正しいことが確認できます。
- ステップ 7** [保存] を選択して、ルールをルールセットに追加します。
- ステップ 8** このセットにさらに追加するルールがあれば、手順 1 ~ 7 を繰り返します。

## ルールの変更

### 手順

- ステップ1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [ルール] メニューで、[着信転送ルールセットの表示] を選択します。
- ステップ2 [着信転送ルールの設定] ページで、変更するルールを含むルール設定の名前を選択します。
- ステップ3 [ルール設定] ページの [転送ルール] リストで、そのルール名を選択します。
- ステップ4 [ルール] ページで、必要な変更を行います。  
[ルールセットへのルールの追加 \(19 ページ\)](#) の表を使用して、フィールドの値を決定します。
- ステップ5 [プレビュー] セクションで、[プレビューのアップデート] を選択してルールのテキスト バージョンを表示し、変更したバージョンが正しいことが確認できます。
- ステップ6 [保存] を選択します。

## ルールセット内のルールの順序変更

ルールセット内のルールの順序は重要です。その理由は、Cisco Unity Connection では、ルールがリストの先頭から末尾に向けて順番に処理され、着信コールについて条件が最初に一致したルールだけが適用されるからです。

ルールセットに複数のルールがある場合、ルールは最も固有性の高いものから最も固有性の低いものの順に並べて、必ず Connection が、より一般的なルールではなく、最も固有性の高いルールを着信コールに適用するようにします。



- ヒント ルールセット内の1つのルールの優先順位を変更するには、[ルールセット] ページの [転送ルール] リストでそのルールに変更を加えて、[優先順位のアップデート] をクリックします。これに応じて、ルールセットの他のルールはすべて、優先順位が変更されます。

### 手順

- ステップ1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [ルール] メニューで、[着信転送ルールセットの表示] を選択します。
- ステップ2 [着信転送ルールセットの設定] ページで、ルールセットの名前を選択します。
- ステップ3 [ルールセット] ページで、[優先順位] カラムに数字を入力して、Connection で設定のルールが処理される順番を指定します（たとえば、「着信はすべてボイスメールに送信する」というルール

を最初に処理するには、1を入力します。「ジェーン・スミスからの着信は携帯電話に送信する」というルールを2番目に処理するには、2を入力します。

**ステップ4** [優先順位のアップデート]を選択します。ルールは、それぞれの優先順位に応じて再度並べられ、保存されます。

## ルールセットのテスト

着信転送ルールのテスト機能ツールを使用して、Cisco Unity Connection がセット内にあるルールに基づいて着信コールを転送する状況を見ることができます。ルールを作成した後でルールセットを選択して、そのルールが特定の発信者または特定の時間に到達する着信コールに適用されるかどうかを見ます。

着信転送ルールのテスト機能ツールは、着信転送の問題を診断する優れた方法でもあります。たとえば、着信コールが予想どおりに転送されなかった場合、実際の発信者の名前と着信が発信された時刻と日付を入力します。このルールテスト機能は、ルールセットの中の Connection が着信コールに適用する部分をつきとめるのに役立ちます。

着信転送ルールのテスト機能を使用して結果を得るには、テストするルールを含むルールセットが有効またはアクティブになっている必要があります。



(注) 着信転送ルールのテスト機能ツールを使用しても着信転送の問題が診断できない場合は、Connection の管理者に問い合わせてください。

### 手順

**ステップ1** パーソナル着信転送ルール Web ツールの [ツール] メニューで、[着信転送ルールのテスト] を選択します。

**ステップ2** [着信転送ルールのテスト] ページで、テストに使用する着信コールの条件を入力または選択します。

- 発信者の名前または電話番号。既知のユーザ（Connection ディレクトリまたは連絡先内のユーザ）についてテストする場合は、[発信者の選択] を選択してユーザを [着信転送ルールのテスト] に追加します。
- 時刻。
- 日付。
- 年。
- ユーザが会議中かどうか。

このルールのテスト機能ツールを使用して正確な結果を得るために、日付を指定します。日付を指定しなかった場合、このルールはデフォルトである現在の日付で評価されます。

ルールをテストする条件は任意の方法で組み合わせることができます。たとえば、発信者、時刻、日付、および年を指定できます。または、時刻と日付だけを指定することもできます。

- ステップ3** [テスト]を選択します。  
有効またはアクティブになっているルールを指定した着信条件に適用すると、Connectionによってルールが表示されます。
- 有効またはアクティブになっていないルールを指定した着信条件に適用すると、Connectionによって一致するルールが見つからなかったことを示すメッセージが表示されます。
- ヒント** 着信転送ルールのテスト機能を使用して、着信が特定の 방법으로転送されない原因を診断する場合は、幅広い条件を定義して開始します。たとえば、名前と日付を設定します。ルールを幅広い条件に適用した場合は、条件を次第に狭くして、ルールがその着信に適用されなかった理由をつきとめます。

## ルールセットの削除

### 手順

- ステップ1** パーソナル着信転送ルール Web ツールの [ルール] メニューで、[着信転送ルールセットの表示] を選択します。
- ステップ2** [着信転送ルールセットの設定] ページで、削除するルールセットの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ3** メニューバーの下にある [選択行の削除] アイコンを選択します。  
ルールセットがアクティブになっている場合は、ルールセットが削除できないというエラーメッセージが表示されます。
- ステップ4** [OK] を選択してそのルール設定を削除します。

## ルールセットの有効化と無効化

ルールセットの有効化とは、そのルールセットをアクティブにする日付または期間を設定することを意味します。Cisco Unity Connection では、スケジュールを使用して、ルールを着信コールに適用します。パーソナル着信転送ルール Web ツールで、アクティブにする期間を事前にスケジュールできます。

ルールセットの無効化とは、そのルールセットをアクティブにできなくすることを意味します。

Connection では、複数のルールセットを同一期間内に有効になるように設定できます。複数のルールセットが有効になっている場合、日付の範囲で有効になっているセットが、曜日によって有効になっているセットよりも優先されます。日付の範囲が適用できなくなった場合は、曜日によって有効にされた設定が元に戻されます。重複した日付に複数のルールセットを有効にすることはできません。

## 手順

- 
- ステップ 1** パーソナル着信転送ルール Web ツールの [ルール] メニューで、[ルールセットの有効化] を選択します。
- ステップ 2** 日付の範囲に対してルールセットを有効にするには、次の手順を実行します。
- [ルールセットの有効化] ページの [期間] セクションの、[ルールセット] カラム リストで有効にするルールセットを選択します。[有効] カラムのチェックボックスは、自動的にオンになります。
  - [開始日] カラム リストと [終了日] カラム リストにおいて、該当する日付を設定します。
  - 別の行を追加するには、[期間の追加] を選択してから、手順 a と手順 b を繰り返して、追加のルールセットに期間を指定します。  
複数の期間を事前にスケジュールできます。次の例を参考にしてください。
    - ・休暇ルールセット、3月1～8日に有効にする
    - ・出張ルールセット、3月9～11日に有効にする
    - ・週労ルールセット、3月12～31日に有効にする当日を含む期間に有効にされるルールセットだけがアクティブになります。
  - [保存] を選択します。
- ステップ 3** 曜日に対してルールセットを有効にするには、次の手順を実行します。
- [ルールセットの有効化] ページの [毎週] セクションの、[ルールセット] カラム リストで該当する曜日に有効にするルールセットを選択します。[有効] カラムのチェックボックスは、自動的にオンになります。  
1つのルールセットを1つの曜日だけでなく複数の曜日（たとえば、毎週火曜日、毎週平日、毎週末）に対しても指定できます。または、[毎日] を選択して、ルールセットをすべての曜日に適用することもできます。
  - [保存] を選択します。
- ステップ 4** ルールセットを無効にするには、次の手順を実行します。
- [ルールセットの有効化] ページで、[有効] カラムのチェックボックスをオフにします。または、[ルールセット] カラム リストの [なし] を選択します。
  - [保存] を選択します。
-

# パーソナル着信転送ルールを適用するための基本転送ルールの設定

パーソナル着信転送ルールは、パーソナル着信転送ルールを適用するために、基本設定の代わりにアクティブな基本ルール（標準、オプション、または時間外転送ルール）が設定されている場合にのみ使用されます。パーソナル着信転送ルール設定を作成して適用した後は、パーソナル着信転送ルールを適用するように基本転送ルールを設定する必要があります。



(注) Messaging Assistant Web ツールを使用して、次の手順を実行します（パーソナル着信転送ルール Web ツールではありません）。

## 手順

- ステップ 1 Messaging Assistant Web ツールの [設定] メニューで、[着信転送と発信者名確認] を選択します。
- ステップ 2 転送ルールの表内で、パーソナル着信転送ルールを使用するために設定する基本転送ルールを選択します。
- ステップ 3 [この基本ルールがアクティブな場合] フィールド内で、[パーソナル着信転送ルールを適用] を選択します。
- ステップ 4 [保存] を選択します。
- ステップ 5 パーソナル着信転送ルールを使用するために設定する基本転送ルールごとに、手順 1 ~ 4 を繰り返します。







# 第 5 章

## 設定の変更

- [ルール処理設定の変更, 29 ページ](#)
- [通話の保留と通話の発信者名確認の設定の変更, 30 ページ](#)

## ルール処理設定の変更

パーソナル着信転送ルールの処理は、有効にすることも、無効にすることもできます。また、Cisco Unity Connection が、アクティブなパーソナルルールを処理する前に、常に内線番号を呼び出すようにするかを選択できます。

Connection が最初に内線番号を呼び出さないと選択した場合、直接コールと間接コールの動作は異なります。

直接コール	内線番号を呼び出します。応答がない場合、着信コールは Connection に転送され、パーソナル着信転送ルールが適用されます。
間接コール	Connection を介して転送され、パーソナル着信転送ルールは内線番号を呼び出さずに適用されます。

直接コールは、別の Connection ユーザが内線番号をダイヤルしたり、外部の発信者が直通電話（ある場合）をダイヤルしたりするように、電話番号を直接ダイヤルする通話です。間接コールは、Connection システムからユーザに転送される電話（たとえば、ユーザに到達するためにディレクトリを使用する発信者からの電話）です。

### 手順

- ステップ 1 パーソナル着信転送ルール Web ツールの [設定] メニューで、[ルール設定] を選択します。
- ステップ 2 必要に応じて、次のチェックボックスのいずれかをオンにします。

オプション	説明
[パーソナル着信転送ルールをすべて無効にする]	<p>オンの場合、すべてのパーソナル着信転送ルールセットは無効になり、<b>Connection</b> は、着信コールを処理するときに、そのルールを考慮しません。着信コールは内線番号に転送されます。</p> <p>(注) 既存のルールセットは、設定が無効にされても、削除されません。</p>
[パーソナル着信転送ルールを適用する前に常にプライマリ内線番号に連絡する]	<p>オンの場合、着信コールが直接コールか間接コールかに関係なく、<b>Connection</b> は、まずプライマリ内線番号を呼び出してから、ルール設定をすべて適用します。</p> <p><b>ヒント</b> 電話がコール転送応答に設定されている場合は、このチェックボックスをオンにして、発信者が直接ダイヤルしたときと<b>Connection</b>を通して番号をダイヤルしたときに、一貫した動作が行われるようにします。<b>Connection</b>が他の通知先の検出を試みる前に、常にプライマリ内線番号が呼び出されます。</p> <p>プライマリ内線番号が一切呼び出されないようにする場合は、このチェックボックスをオフにして、<b>Cisco Unity Connection</b> に対するコール転送応答の設定を電話に設定します。</p>

**ステップ 3** [保存] を選択します。

## 通話の保留と通話の発信者名確認の設定の変更

着信をプライマリ内線番号に転送するように転送ルールが設定されている場合、電話が通話中の場合に **Cisco Unity Connection** が着信を処理する方法を指定できます。

また、**Connection** 管理者が発信者名確認オプションを有効にしている場合、**Cisco Unity Connection** によって着信の発信者名を確認することを選択できます。**Connection** は、発信者の名前を尋ね、その名前を再生してから通話を接続することができます。また、着信の接続時に通知したり、電話に出るか、発信者がメッセージを残すことができるようにボイスメールに転送するかを選択できます。それぞれのパーソナル着信転送ルールでは、ルールの条件に一致する着信を発信者確認するかどうかを設定できます。



### ヒント

定義されているどのルールにも一致しない着信は、有効になっている任意の通話の発信者名確認オプションを使用して、プライマリ内線番号に転送されます。そのような着信の発信者名を確認しない場合は、すべての着信に一致するワイルドカード文字を使用してルールを作成し、ルール設定の最後のルールとして設定します。

手順

**ステップ 1** パーソナル着信転送ルール Web ツールの [設定] メニューで、[通話保留と発信者名確認] を選択します。

**ステップ 2** 保留設定を変更するには、[自分のデバイスが話中の場合] リストで、内線が通話中の場合に Connection が着信を処理する方法を選択します。

オプション	説明
[発信者をボイスメールに転送する]	グリーティングが再生され、発信者にメッセージを残すように求めます。
[発信者を保留にする]	発信者が保留され、メッセージを残すかどうかは質問されません。
[保留して良いかを発信者に問い合わせる]	保留するかメッセージを残すかを発信者が選択できるようにします。

**ステップ 3** 通話の発信者名確認の設定を変更するには、[着信時の発信者確認] セクションで、必要に応じて次の 1 つ以上のチェックボックスをオンにします。

オプション	説明
[通話接続時に通知する]	着信コールの接続時に通知します。
[通話の宛先を通知する]	内線番号に関連付けられている名前を再生します。複数の人が電話を共有している場合は、この設定を使用します。
[電話を取るか確認する]	電話に出るか、発信者にメッセージを残してもらおうかを選択できるようにします。
[発信者に自分の名前を録音してもらおう]	発信者の名前を録音し、着信を接続する前に再生します。

次の考慮事項に注意してください。

- 電話を共有している誰かに対する着信を拒否する場合、[通話の宛先を通知する] チェックボックスと [電話を取るか確認する] チェックボックスの両方をオンにします。
- 発信者の身元に基づいて電話に出るか拒否するかを選択するには、[電話を取るか確認する] チェックボックスと [発信者に自分の名前を録音してもらおう] チェックボックスの両方をオンにします。

電話に出る場合、Connection によって着信が接続されます。拒否する場合、Connection によって着信がボイスメールに転送されます。

**ステップ 4** [保存] を選択します。

---



## 索引

### S

SMS 通知先 [10](#)  
SMTP 通知先 [10](#)

### あ

アクセス [2](#)  
    パーソナル着信転送ルール Web ツール [2](#)  
    パーソナル着信転送ルール Web ツールのヘルプ [2](#)

### か

間接コール、概要 [29](#)

### き

基本転送ルール、パーソナル ルールを適用するための設定 [27](#)

### こ

コール [29](#)  
    間接、概要 [29](#)  
    直接、概要 [29](#)  
個人の通知先 [9, 10, 11](#)  
    関連項目：[通知先](#)  
    削除 [11](#)  
    作成 [10](#)  
    電話 [9](#)  
    変更 [11](#)  
        関連項目：[通知先](#)

### さ

削除 [7, 8, 11, 15, 25](#)  
    個人の通知先 [11](#)  
    通知先グループ [15](#)  
    発信者グループ [8](#)  
    発信者グループからの発信者の削除 [7](#)  
    ルールセット [25](#)  
削除：通知先グループから通知先 [15](#)  
作成 [6, 10, 13, 19](#)  
    個人の通知先 [10](#)  
    通知先グループ [13](#)  
    発信者グループ [6](#)  
    ルールセット [19](#)

### ち

着信コール、パーソナル着信転送ルールでの処理 [17](#)  
着信転送 [30](#)  
    通話の発信者名確認の設定の変更 [30](#)  
    通話保留の設定の変更 [30](#)  
直接コール、概要 [29](#)

### つ

追加 [6, 19](#)  
    発信者グループへの発信者の追加 [6](#)  
    ルールセットへのルールの追加 [19](#)  
通知先 [9, 10, 12](#)  
    関連項目：[個人の通知先](#)  
    SMS [10](#)  
    SMTP [10](#)  
    概要 [9](#)  
    電話 [9](#)  
    電話の呼び出し回数設定の変更 [12](#)  
    電話のループ検出の有効化設定の変更 [12](#)

## 通知先 (続き)

関連項目: [個人の通知先](#)

通知先グループ [13, 14, 15](#)

概要 [13](#)

削除 [15](#)

作成 [13](#)

通知先の削除 [15](#)

変更 [14](#)

通話の発信者名確認 [30](#)

設定、変更 [30](#)

通話保留の設定、変更 [30](#)

## て

転送ルール、パーソナルについて [1](#)電話通知先 [9](#)

## な

名前、発信者グループの変更 [8](#)

## は

パーソナル着信転送ルール [17, 19, 27](#)

概要 [17](#)

適用するための基本転送ルールの設定 [27](#)

ルールセットへの追加 [19](#)

パーソナル着信転送ルール Web ツール [1, 2](#)

アクセス [2](#)

概要 [1](#)

パーソナルルールを適用するための基本転送ルールの設定 [27](#)発信者 [6, 7](#)

発信者グループからの削除 [7](#)

発信者グループへの追加 [6](#)

発信者グループ [5, 6, 7, 8](#)

概要 [5](#)

削除 [8](#)

作成 [6](#)

名前の変更 [8](#)

発信者の削除 [7](#)

発信者の追加 [6](#)

## へ

ヘルプ、パーソナル着信転送ルール Web ツールへのアクセス [2](#)変更 [8, 11, 12, 14, 23, 29, 30](#)

個人の通知先 [11](#)

通知先グループ [14](#)

通話の発信者名確認の設定 [30](#)

通話保留の設定 [30](#)

電話通知先の呼び出し回数設定 [12](#)

電話通知先のループ検出の有効化設定 [12](#)

発信者グループの名前 [8](#)

ルール [23](#)

ルール処理設定 [29](#)

## む

無効化 [25, 26](#)

ルールセット [26](#)

ルールセット、概要 [25](#)

## ゆ

有効化 [25, 26](#)

日付の範囲に対するルールセット [26](#)

曜日に対するルールセット [26](#)

ルールセット、概要 [25](#)

## よ

呼び出し回数設定、電話通知先に対する変更 [12](#)

## る

ループ検出の有効化設定、電話通知先の変更 [12](#)ルール [17, 23](#)

概要 [17](#)

変更 [23](#)

ルールセット内の順序変更 [23](#)

ルール処理設定、変更 [29](#)

ルールセット [17, 18, 19, 23, 24, 25, 26](#)

概要 [17](#)

削除 [25](#)

作成 [19](#)

## ルールセット (続き)

- 設定するためのタスク リスト [18](#)
- テスト [24](#)
- 日付の範囲に対する有効化 [26](#)
- 無効化 [26](#)
- 曜日に対する有効化 [26](#)

## ルールセット (続き)

- ルールの順序変更 [23](#)
- ルールの追加 [19](#)
- ルールセット内のルールの順序変更 [23](#)
- ルールセットのテスト [24](#)

